

令和6年度 世代間交流による防災啓発機会の創出

—概要版—

受託：  一般社団法人
BOSAI Edulab

はじめに

本報告書は、総合的な探究の時間等を活用した防災教育の取組を通して、世代間の交流を推進するための事例集となっています。各事例を参考に、学校の実情に合わせて、学校と地域社会及び世代間交流を促す防災教育を企画・実施するための手引きとなれば幸いです。

目標

防災について「学ぶこと」と「伝えること」の両面を高校生に体験してもらい、自らが暮らす地域の防災情報や特性、子どもの発達段階についても理解を深めながら、子どもたちが楽しみながら学べる防災講座等を企画し、地域や保育施設等で実践することで、地域の理解や防災意欲の向上を目指します。

- 導入時間の例
 - 総合的な探究の時間
 - 家庭科「保育体験実習」と連動 等

静岡県立沼津城北高等学校（1年生）

導入教科：総合的な探究の時間

日程：2024年11月18日～2025年2月12日

方法：防災講話、グループワーク、避難訓練でのインタビュー、プレゼンテーション

生徒から出されたアイデア

- 災害時、避難所で高校生が若い子どもや高齢者の遊び相手、話し相手になることができる。
- 家庭科の保育の分野で学んだことを活かして、避難所で子どもと遊んであげたい。
- 高校生は力があるので、避難所に届いた物資を積極的に運び、避難所に貢献したい。
- 高校生は英語を学んでいるので、避難してきた外国人旅行者と積極的にコミュニケーションをとり、外国人の避難生活を支えたい。
- 地域の防災訓練の参加者が増えるようポスターを作成し、啓発活動を行う。

静岡県立沼津城北高等学校（1年生）

感想

- 自分たちができることを考える機会があつて良かった。
- 災害が実際に起きたら実践したい。

成果と課題

- 地域・防災への関心向上と地域連携の構築に向けた素地形成
活動を通じて生徒の地域や防災への関心は高まったが、学校と地域の協働体制今後の課題。
- 探究活動の時間とリソースの確保
探究活動の時間を十分に確保し、学校全体でカリキュラムとマネジメント体制を整える必要。
- 伴走者の質と量の確保
地域や専門家の協力が初期段階では不可欠であり、外部支援とその計画的活用、そして教員間での役割分担の共有が求められる。
- 支援体制の見直しと工夫
外部支援が限定的だったため、タブレット等を活用したオンライン支援や支援計画の事前共有や先行事例の共有が改善策となる。

取組の様子



大学生らによる講話の様子



大学生らによる講話の様子

取組の様子



グループで探究課題について話し合い、アドバイスを受けている様子

静岡県立駿河総合高等学校（1年生）

導入教科：総合的な探究の時間

日程：9月9日(月)～12月20日(木)

方法：防災講話、グループワーク、防災×遊びの企画、幼稚園での実践、
プレゼンテーション

生徒から出されたアイデア：

- 自分の地区の避難場所や避難タワー等、自分の身の回りのことを確認。
- クイズや遊びなど、楽しみながらできるもので興味を引く。
- 家族に避難グッズや食料の備蓄の有無について聞き、足りないものを買って足すことを促し、なぜそれが必要なのかを考える機会の創出。

静岡県立駿河総合高等学校（1年生）

感想

- 今回の学習をきっかけに自分事として捉えることができるようになった。
- 小さい子たちにも楽しんでもらえたし、自分たちも勉強になってよかった。
- 企画から準備、実施まで多くの時間を活動に割いたが、企画のところが一番難しく、多くの時間がかかった。
- 実際に自分の身に起こったらということを想定しながら考えると、危機感からなのかアイデアが頭に浮かぶようになった。
- 今まで以上にニュースの地震情報や、災害の情報に耳を傾けるようになった。静岡も南海トラフがいつ起こるか分からないので、いつ起きてもいいようにしっかり物資と心の準備をしたい。

静岡県立駿河総合高等学校（1年生）

成果と課題

- 探究活動の高度化と質の向上
静岡県内でも有数の探究活動の取組を展開され、生徒が探究活動に慣れているため、活動が形式化しやすく、新たな学びを生み出す工夫や改善の意識をどう醸成するかが課題。
- 探究活動の深化と継続的な支援の必要性
生徒はスムーズに活動を進めるが、内容の吟味・再検討や実演後の改善意識が低く、より深い学びを促す支援の必要性。
- 多人数・長期活動への支援体制の強化
200名を超える生徒が探究活動を実施する中で、探究の時間以外での自主的な取り組みをいかに支援するか課題。
- 持続的なサポート体制の構築
担当教員の異動の影響を抑え、安定した支援を実現するために、伴走サポーターの充実や関係者間の協議を進める必要がある。

取組の様子



大学生による導入の講話の様子



授業に参加する生徒の様子

静岡県立浜松工業高等学校（1～3年生）

導入教科：理科、特別活動

日程：2025年3月7日～3月13日

方法：防災講話、グループワーク、防災施設の視察、地域でのフィールドワーク・
インタビュー、プレゼンテーション

生徒から出されたアイデア

- 地域での過去の災害の聞き取り調査
- 津波避難タワーの実態調査
- 消火器の使い方の伝え方
- 非常食の準備
- ローリングストックでの備え

静岡県立浜松工業高等学校（1～3年生）

感想

- 今後の災害に備えて、防災グッズを揃えたり、家にある家具が地震で倒れないように対策をしつかりとしようと思いました。
- 浜松に住んでいて小学校の頃から南海トラフ地震のことを聞かされて怖い気持ちが強かったけど地震対策をしていざというときに大丈夫なようにしたいです。逆に対策をガッチガチにして地震なんて上等だよ。ぐらいの気持ちで過ごせるぐらいにしたいです。
- 日常の色々な場面で起こり得る災害に対する意識が少し変わったような気がします。

静岡県立浜松工業高等学校（1～3年生）

成果と課題

- 教科横断的な防災教育の実践
修学旅行での防災センター訪問や理科の授業を活用した災害のメカニズム学習など、生徒の防災理解を深める有効なアプローチを実践。
- 探究活動の時間不足と地域還元の課題
活動時間が限られており、調べ学習に留まりやすく、地域への還元や具体的行動につながりにくい点が課題。
- カリキュラムマネジメントの重要性
年間を通じた計画的な探究時間の確保が必要であり、教育内容だけでなく資質・能力の育成という視点での再構築が必要。
- 教員支援と研修体制の整備
防災探究をより充実させるためには、学習を支える教員への支援体制や専門的な研修の充実も重要。

取組の様子



生徒の発表の様子



防災基礎に関する講話の様子

取組の様子



生徒らによる舞坂地区の過去津波に関するフィールドワークの様子



地域住民へのヒアリングの様子